

生活経済学会関西部会

2018年度 研究大会プログラム

研究大会

日時：2018年12月15日(土) 14:30～17:10

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス 10階 1003教室
(大阪市北区茶屋町 19-19 アプローズタワー)

開会挨拶 関西部会会長 所 道彦 (大阪市立大学) 14:30～14:35

第1報告者：松本 直樹氏 (追手門学院大学) 14:35～15:20
論 題：「開放経済における所得分配と物価」

第2報告者：高木 隆介氏 (大阪府・大阪市IR推進局推進課) 15:20～16:05
論 題：「なぜ、大阪がIR誘致をめざすのか」

休憩 (15分)

第3報告者：大藪 千穂氏 (生活経済学会副会長・岐阜大学) 16:20～17:05
論 題：新たな「アセット・シェア社会」から生活を考える
～生活経済学会企画PTからの提案を中心として～

閉会挨拶等 生活経済学会副会長 大藪 千穂氏 (岐阜大学) 17:05～17:10

(報告30分、質疑応答15分を予定しております)

懇親会

日時：2018年12月15日(土) 17:30～19:30

会場：近隣の居酒屋 (当日案内させていただきます)

会費：2000～2500円 (予定)

各報告のテーマと概要

第1報告

報告者：松本 直樹氏（追手門学院大学）

論 題：「開放経済における所得分配と物価」

概 要：本報告の目的は、輸入原材料と労働分配率を明示的に導入した開放マクロ・モデルを用いて、名目賃金の引き上げが所得分配の変化を通じて物価と雇用におよぼす効果を理論的に検討することである。ここで重要な要素となるのは、物価に関する予想の弾力性の値である。分析の結果、1990年代後半からの名目賃金の低下が日本経済にデフレーションをもたらした可能性のあることが示された。このことは、名目賃金の引き上げがデフレーションからの脱却を可能にすることを示唆している。

第2報告

報告者：高木 隆介氏（大阪府・大阪市IR推進局推進課）

論 題：「なぜ、大阪がIR誘致をめざすのか」

概 要：大阪府・大阪市は、平成29年4月に、府市共同の内部組織としてIR推進局を設置し、大阪・夢洲へのIR（統合型リゾート）誘致の実現に向けて取り組んでいます。今回、大阪府・大阪市が、IR誘致をめざす理由・背景、大阪がめざすIR像、懸念事項の最小化などについて、IR推進局職員から説明させていただきます。

第3報告

報告者：大藪 千穂氏（生活経済学会副会長・岐阜大学）

論 題：新たな「アセット・シェア社会」から生活を考える
～生活経済学会企画PTからの提案を中心として～

概 要：PTでは「終わり」から生活を考えるという議論を進めてきた。生活の中でのアセットは、「新しいアセット」から成り立っていると考えられる。学会では、高齢社会に絞って、「新しいアセット・シェア社会」について検討し、そこから生活に即して、どのように社会の仕組みが変わるべきなどの政策的な問題意識に展開していきたい。

【研究大会会場へのアクセス】

